

英語科学習指導案

日 時 平成 20 年 10 月 9 日 (木) 5 校時

場 所 3 年 C 組教室

学 級 3 年 C 組(男子 18 名 女子 15 名 計 33 名)

指導者 大久保 満弘 藤村 典子

1 単元名 Unit6 20th Century Greats (New Horizon English Course Book3 東京書籍)

2 単元の目標

- ・接触節の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- ・関係代名詞 who を用いた文の形・意味・用法を理解できる。
- ・関係代名詞 that[which] (主格) を用いた文の形・意味・用法を理解できる。

3 単元について

20 世紀の偉人たち、特に「沈黙の春」の著者レイチェル・カーソンを取り上げる。由美たちがカーソンについてのレポートをまとめる、という場面設定を通して、カーソンの業績や簡単な伝記が扱われる。

本単元では、環境問題について警告を発した草分け的存在として、カーソンは取り上げる価値のある人物ある。また、生徒が主体的に調べ、レポートをまとめる、という作業は、3 年間の最後の Unit にふさわしい。

4 生徒の実態

本学級の生徒は、とても明るく英語学習にとっても意欲的である。1 年生時からペアワークやグループ活動を多く設定し、取り組んできたので誰とでも積極的にコミュニケーション活動を行う生徒が多い。音読活動においても失敗することを恐れずに、意欲的にみんなの前で発表する姿勢も見られる。「書く」活動では、受験生ということもあり、以前よりも単語取り組みへの意識が高まり、十分な定着が見られる生徒が増えてきた。夏休み明け英単語テストでは、学級の半分が満点という成果を上げることができた。その反面、読むことや話すことはできても、書くことへの定着には結びつかない生徒も数人見られる。本校のテーマである、教えあい、学びあう環境の中で、意欲関心を高めながら、一人ひとりを大切にして自信を持てるように支援していきたいと考えている。

5 単元の評価規準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

- ・「接触節」を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解しようとしている。

(2) 表現の能力

- ・「接触節」及び「関係代名詞」を用いて、物や人を話すことにより説明・紹介できる。
- ・「接触節」及び「関係代名詞」を用いて、物や人を説明・紹介する文を書くことができる。

(3) 理解の能力

- ・「接触節」及び「関係代名詞」を用いた文を聞いて、内容を理解することができる。
- ・本文を読んで、内容を理解することができる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

- ・「接触節」及び「関係代名詞」について語順・語法を正しく理解している。

6 指導計画

- ・20世紀の偉人たちに興味関心をもつ・・・・・・・・・・・・・・・・・・本時
- ・レイチェル・カーソンがどういう人物か、おおまかに知る・・・・・・・・・・1時間
- ・カーソンの業績について知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
- ・カーソンの生涯について詳しく知る・・・・・・・・・・・・・・・・・・1時間

7 本時について

(1) 指導の構想

本単元は、20世紀の偉人についてレポートをまとめる形での単元となっている。教科書では、レイチェル・カーソンを取り下げているが、生徒にも実際に実在の人物についての簡単なレポートを書かせて単元の学習のまとめとしたい。そのためには、生徒の興味関心に留意して教材を提示し、人物についてどんな人か詳しく説明する時には、関係代名詞を含む表現を使うことができることを指導していきたい。

本時の **Starting Out** では「接触節」を扱うが、これは関係代名詞目的格の省略というようにはとらえず、名詞の後の語順を意識した指導と具体的な例を用いた反復練習によって身に付けさせていきたい。「接触節」の形・意味・用法を理解させた上で、基本文を含めた基本表現を定着させていきたい。また、最終的には、基本表現をしっかり暗唱させたい。会話にふさわしい「読み方」から「話し方」になるように教え合いながら、いろんなペアの発表を聞き、学び合い、「書くこと」によって学習の理解を深めていきたい。

(2) 教え合い、学び合いを生かす手立てについて

導入 : 前時までの復習として、1枚の絵を見て英作文をつくる問題をペアで行う。出来上がったら数ペアに発表してもらい、発表者の答えも参考に、共有することで周りの人たちも理解を深めさせたい。

展開 : 教師の説明はなるべく控えて、生徒同士の発言によって、今日の学習課題を確認する。「接触節」の形・意味・用法を理解して、ペアでの **speaking** や全体での確認をしながら基本文の定着を図りたい。最終的なゴールとして、自分の身近なものを紹介、説明する文を作り、発表したり、聞いたりすることで学習の理解を深める学び合いの時間としたい。

(3) 本時の目標

① 「接触節」を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解することができる。
 <コミュニケーションへの関心・意欲・態度>

② 「接触節」を用いて、自分の身近な物について説明・紹介する文を書くことができる。
 <表現>

(4) 本時の具体の評価規準と生徒の学習状況

観点	評価	具体の評価規準		
		A「十分に満足できる」	B「概ね満足できる」	C 努力を要する生徒への手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度		アイコンタクトや聞き返しなどをしっかりし、自分が伝えたい物について適切に相手に伝えることができる。	自分が伝えたい物について適切に相手に伝えることができる。	プリントを見ながらでも、自分なりに相手に伝えたいことが言えるように援助する。
表現の能力 (話す・書く)		「接触節」を含む3文以上の文を、きちんとした構成で書くことができる。	「接触節」を含み、伝えたいことを概ね1文以上で書くことができる。	語順を想起させ、「接触節」を含む文は、書けるように援助する。

(5) 本時の展開 (●学習活動 ☆表現の項目 ◎評価項目<評価の観点> ○評価方法 ・指導上の留意点)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 15	1 あいさつ 2 Warm Up	1 英語であいさつをする 2 Warm Up ●1枚の絵から様々な英文を作る。 ☆数人に英文を発表してもらう。	・明るくはっきりと行う (T1 T2) ・学習の雰囲気作りと既習事項の定着 ・ペアで教え合い、学び合いさせながら、より多くの英文を作成させる。 (T1 T2とも机間指導を行う) ○観察・プリント T2は机間指導し文法的な間違いなどがあれば助言し、T1は主に努力を要する生徒などへの援助を行う。
展開	3 本時の学習課題の提示	3 課題を確認する	・生徒の発言、つぶやきを大事にして、課題を設定する。
	接触節を用いて、自分の説明・紹介したい文を作り、相手に伝えよう。		
	4 20世紀の偉人の紹介	4 20世紀の偉人を紹介する 例) Look at these pictures. They're the famous people of the 20 th century. Do you know who they are? ●偉人のピクチャーカードを数枚見せ、誰なの	・偉人を紹介し、学習内容への興味づけを行う。(T1・T2で偉人を紹介)

展開 25	5 基本文の導入	<p>か確認させる。</p> <p>5 接触節(Contact Clause)の導入をする。 黒板で文法の説明をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>This is a <u>dictionary</u> I bought in America.</p> <p style="text-align: center;">↑</p> </div> <p>①接触節の文を定着させるために、パターンプラクティスを行う。</p> <p>②学習シートで練習問題にチャレンジする。</p> <p>③答え合わせをし、確実に覚える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板で基本文の説明を行う(T1) ・机間指導を行いながら助言する(T2) ・引き続き、T2 は机間指導しながら助言し、T1 は援助が必要な生徒の指導にあたる ・間違いをきちんと訂正しているかチェックする。
	6 説明・紹介する文の作成	<p>☆ 接触節を使い、身近な物で相手に説明する文を作る。既習の文法を使用し、さらに話を展開させるところまでチャレンジさせさらなる意欲向上を目指す。</p>	<p>◎「接触節」を用いて、自分の身近な物について説明・紹介することができたか。 <表現></p> <p>○観察・プリント</p>
終末 10	7 本時のまとめ	<p>☆ 作成した文を相手に紹介する。 自分の説明したいことをきちんと伝え、相手の説明もきちんと聞き入れ、学び合う姿勢を大切にする。</p>	<p>◎「接触節」を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解することができたか。</p> <p><関心・意欲・態度></p> <p>○観察・プリント</p>
	8 宿題の確認と次時予告	<p>8 宿題と次時の内容を確認する。</p>	

(6) 本時の評価

- ① 「接触節」を用いて、積極的に自分の伝えたい物を説明したり、相手の伝えたい物を理解することができたか。
- ② 「接触節」を用いて、自分の身近な物について説明・紹介する文を書くことができたか。